

# 南高新聞

～ 2年修学旅行・総文祭特集号 ～

発行日 令和2年 1月10日  
文責：新聞委員長 中村 正直



昨年(2019年)の11月8日に行われた「長崎県高等学校総合文化祭開会式」に、南高の2年生が実行委員として参加し、2年生全体で鑑賞もしました。また、同年12月3日～6日の4日間、2年生で関東方面への修学旅行に行きました。東京オリンピックに向けて日々変わり続ける日本の姿を見た生徒はたくさんの学びのタネを見つけたと思います。



※全クラスの写真を掲載できずにすみません <(\_)\_>

## ☆修学旅行の思い出☆

### 一組

私達は事前に東京の情報を多く集め、自主研修に挑みました。第一印象としては、みんな口を揃えて「外国人多い!」と言っていました。お店では、外国人観光客に対応できるように、少なくとも一人は英語が話せる店員さんがいるという状況が備わっていました。今回の修学旅行を通して、改めて英語がどれほど身近で、どれほど大事なのかを実感し、今まで以上に英語の学習に力を入れていくことが大切だと思いました。この4日間で気づいたこと、発見したことを無駄にせず、これからの学校生活を過ごしていこうと思います。

### 二組

私達は修学旅行で国会議事堂に行きました。正面に向かって左側に衆議院、右側に参議院が配置されており、外装も内装もとても豪華できれいでした。中央広間には、日本の政治に大きく携わった、板垣退助、大隈重信、伊藤博文らの大きな銅像が立っており、改めて偉大な人物だと思いました。そして、国会構内の前庭には各都道府県から贈られた「都道府県の木」が植えられていました。私たちも来年は選挙権を持つ年齢になるのでこれからは日本の政治にもっと興味を持ち、積極的に参加したいと思いました。

### 三組

私達は浅草の周辺散策で2つの発見をしました。一つ目は、浅草から歴史を学べるということです。浅草の中で最も有名なのは「雷門」です。高さ約3.9m超、重量約700kgの大きな提灯があり、実際見た時は圧倒されました。二つ目は、東京で日本を一番感じることができることです。「浅草仲見世商店街」を歩いていると、扇子、箸、せんべい、だんごなど、昔ながらの日本の雰囲気を感じることができました。歩くだけで日本を感じることができるのが最大の魅力なのだと思います。今年は東京オリンピックがあり、外国人観光客もたくさん来ると思うので、修学旅行で感じた日本らしさを感じてほしいです。

### 四組

修学旅行3日目に東京ディズニーランドへ行ってきました。そこでは平日にも関わらず、多くの人で賑わっており、数多くのお客さんを楽しませる工夫や対応を垣間見ることが出来ました。一つ目は、スタッフの対応です。お店の中や道で会った私達に笑顔で手を振ったり、ハイタッチをしてくださったり、さらに楽しくなりました。二つ目は、ディズニーランド内がとてもきれいだったことです。売店やアトラクションなどどこを歩いてもゴミはなく、トイレなどすぐ汚れてしまう場所にも常に掃除が行き届いていました。このように、ディズニーランド内には様々な工夫がされており、その工夫のおかげで友達とたくさんの思い出を作ることが出来ました。

### 五組

私達は横浜税関に初めて行きました。そこを歩いて回ると、金属探知機での荷物検査や、違法な薬物・武器など、大変興味深い展示がたくさんありました。その中で特に私が一番好きだったのは、ブランド物の偽物と本物が並べられている展示です。ぱっと見て本物を見分けるのは至難の業でした。私が今まで購入した物の中に、もしかしたら偽物があるのではないかと、不安になりました。

### 六組

私達は川崎フロンターレの練習を訪問しました。そこで私達は大きな2つの発見をしました。一つ目は、プロというものの凄さを感じました。例えば、練習が始まる前と後の気持ちのONとOFFの切り替えが早かったことや、1つ1つのプレーの精密さをまのあたりにしました。二つ目は基礎の大切さです。プロの選手でも、基礎の練習に重きを置いていることを知り、何事にも基礎が大切だと気づかされました。今回のコース別研修では間近で、プロの姿を見ることができるという貴重な体験をすることができました。この研修での発見をこれからの生活に活かしていきたいと思いました。

昨年(2019年)の11月8日～10日にアルカスSASEBOにて長崎県高等学校総合文化祭(しおかぜ祭)が開催されました。テーマは「AKATSUKI」。毎年、県北・県南・県央の3地区の持ち回りで開催されます。今回は、県北地区の担当となり、南高の2年生が約20名参加し、実行委員長を2年4組の柿原千尋さんが務めました。

私は今回総文祭の実行委員長として、県北地区の学校の仲間とともに総合開会式を創り上げました。始めはただただしかった意見交換も話し合いを重ねるごとに活発に行われるようになり、実行委員含め開会式に携わる全員が、さらにより良いものを創ろうと一つのチームになっていきました。

今回初めて総文祭に関わり、大人数で一つのものを作ることの難しさや、だからこそ得ることの出来る達成感など、多くのことを学びました。

最後に、何より私が嬉しかったのは、実行委員にならなければ出会うことのなかった仲間に出会えたことです。

今回学んだことをこれからの生活に活かしていきたいと思いました。  
2年4組 柿原千尋



### ■編集後記

今回の新聞は、修学旅行と県高総文祭の特集でした。ちょっとした想定外により、発行が年を越してしまい、申し訳なく思っています。何事もそうですが、準備力や対応力が求められています。これからは、気を引き締めて頑張っていこうと、今年(2020年)の目標にしたところでした。皆さんにとって、2020年という節目の年が、良い年でありますように!